

はじめに



国立社会保障・人口問題研究所の推計によりますと本町の65歳以上の高齢者数は、2025年の2,126人をピークに減少局面に転じますが、一方、高齢化率は同年で40.7%と国平均の30.0%、県平均の35.2%を大きく上回ることが予想されております。さらに、2040年に高齢化率は45.1%まで上昇し、生産年齢人口（15-64歳）割合の43.5%を上回ることが見込まれています。

このような時代を見据え、本町においては2020年度から第6次となる総合振興計画を策定し、先人たちが築き上げてきた結の心が創り上げた21の「字」を中心とした魅力ある強固な地域社会を、子や孫に引き継いでいく取組を進めることとしております。一層進む高齢者社会において、介護が必要な状態になっても高齢者が住み慣れた「字」で自分らしく（マイペースな）生活を送ることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される地域包括ケアシステムの構築に引き続き取り組んでまいりますとともに、「字」を基盤とした多様性と強固なコミュニティの基軸の上に、「受け手側」「支え手側」といった従来の関係を超えて、一人ひとりが生きがいや役割を持ち、助け合い協力しあう地域共生社会の実現を目指します。

最後に、本計画の策定にあたり多大なご尽力をいただきました「知名町高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画策定委員会」の委員の皆様並びにアンケート調査やヒアリングなどで貴重なご意見をお寄せいただいた町民・事業者・関係団体の皆様に心から感謝を申し上げます。

令和3年3月

知名町長 今井 力夫